

顎関節症学特論・実習・臨床実習

演習，第1・2学年，前後期，必修，
セミナー・実習・臨床 第1・2学年 2・2・10単位，単位数 10

《キーワード》 顎関節疾患の診察・検査・診断・治療・効果測定、顎関節症の診察・検査・診断・治療・効果測定

《担当者名》 中山 英二 enaka@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

顎口腔系機能について、下顎運動、咬合、咀嚼機能を理解したうえで、顎関節症に関する診断、保存的治療法及び外科的治療法、治療の評価について演習を行う。

【学修目標】

1. 顎関節疾患の診断と治療について説明できる。
2. 顎関節症について説明できる。
3. 顎関節症の診断法について説明できる。
4. 顎関節症の保存的治療法について説明できる。
5. 顎関節症の外科的治療法について説明できる。
6. 顎関節症に関連する100例以上の診療実績を提示できる。
7. 顎関節症に関連する専門学会に参加し発表を行うことや研修会に参加し内容を説明できる。
8. 顎関節症に関連する学術論文を3編以上執筆できる。（筆頭著者として専門学会誌掲載論文1編を含む。）

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	顎関節症に関する診断、治療ができるように、学習のガイダンスを受け、内容を理解できる。	中山 英二
2	顎関節疾患の診断と治療	顎関節症に関する診断、治療ができるように、顎関節疾患の診断と治療を説明できる。	中山 英二
3	顎関節症の診断と治療	顎関節症に関する診断、治療ができるように、顎関節症の診断と治療を説明できる。	中山 英二
4	下顎運動機能の評価	顎関節症に関する診断、治療ができるように、下顎運動機能の評価ができる。	中山 英二
5	咬合機能の評価	顎関節症に関する診断、治療ができるように、咬合機能の評価ができる。	中山 英二
6	咀嚼機能の評価	顎関節症に関する診断、治療ができるように、咀嚼機能の評価ができる。	
7	顎関節症の診断法	顎関節症に関する診断、治療ができるように、顎関節症の診断を実施できる。	
8	顎関節症の保存的治療法	顎関節症に関する診断、治療ができるように、顎関節症の保存的治療法を実施できる。	
9	顎関節症の外科的治療法	顎関節症に関する診断、治療ができるように、顎関節症の外科的治療法を説明できる。	

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

口頭試問か筆記試験100%

【教科書】

演習中に指示する。

【参考書】

演習中に指示する。

【備考】

外来・病棟及び手術室での実習を含む。

【学修の準備】

文献reviewを行ったうえで、evidenceの有る文献を批判的に精読し、論文の問題点と今後の研究課題について考察しておく。

【実務経験】

中山 英二（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

日本顎関節学会指導医であり、学理に立脚した学科教育と実務経験を基盤とした臨床教育で優れた教育成果が期待できる内容となっている。